

■亡命チベット人に関心

人権NGOヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW)でインドなど南アジアを担当するメナクシ・ガングリーさん(43)が来日、「日本は主要援助国であるうえに地域の伝統を重んじ、欧米流の価値観も押しつけない。南アジア諸国の人権問題で果たせる役割は大きい」と語った。

米タイム誌の特派員をつとめた後、03年にHRW上級調査員となり、出身地のインド・ムンバイを拠点に活動する。いま、特に気がかりなのは、インドに亡命政府を置く亡命チベット人の状態だ。

「3月の中国チベット自治区での暴動後、隣国のネパールが国内のチベット人活動家の拘束など、中国政府の圧力を受けた動きを強めている。日本もこの問題にぜひ声をあげて」

(大野正美)

